

Regular Meeting Report

7月例会報告書



組織連携からなる無限の可能性を目指して

世界、日本、東京のJCトップ3人が集結 史上初、前代未聞の例会が実現

かつてないスケールと、新たな試みを随所に取り入れて行われた7月例会。世界117カ国以上、20万人のメンバーを有する国際青年会議所の会頭、マーク・ブライアン・リム君と、全国695カ所、3万6千人が属する日本青年会議所のトップ、池田祥護君、そして600名以上のメンバーが参加する東京青年会議所のトップ、石川和孝君が一堂に会し、組織連携の重要性や課題、目指すものについて語り合いました。

2018年7月14日、芝浦工大豊洲キャンパスにて「世界と日本と東京」が集い「Let's make collaboration～組織連携からなる無限の可能性～」をテーマとする7月例会を開催。組織や地域を超えた国内外のネットワークをもつことの重要性や、そのネットワークの中に身を置くことで得られる学び、組織連携によってこそなされる大きなムーブメントの可能性などについて、ディスカッションしました。



世界のトップからのメッセージ 使命感、活動、そして無限の可能性

フィリピン・ドゥバン市副市長であり、マジック・グループ・オブ・カンパニーの最高経営責任者、さらに国際青年会議所の会頭を務めるマーク・プライアン・リム君。その基調講演は、JCIを使命感を発揮する場ととらえ、貴重な自身の体験をふんだんに交えたものでした。明るく豊かな社会を目指しJCI運動が活発なフィリピンにおいて、より良い社会の実現に向けた不屈の姿勢、奉仕の精神を身につけ、実践すること。そのためにJCIがいかに有益であるか、その意味を語ってくれました。

人前でスピーチが苦手だったという経験談からは信じられない、聴衆の心をつかむ熱いメッセージ。それも自己成長の場であるJCIで培った努力の成果のひとつという言葉をはじめ、日頃の活動に根ざしたエピソードに多くの参加者が聞き入りました。



自らの組織論や自身の活動論で 3人のトップが互いに刺激しあう

第2部のパネルディスカッションでは、3人のトップが自らのリーダー論や組織論を熱く語り合いました。変容する社会の中で、自身の利益のみならず、目指すべき社会や目的を仲間と共有し、実現していくこと。そのためには、あらゆる垣根を超えた組織間のネットワークを強化しなければならないこと。多様なメンバーが集まる組織の中で、どのようにそれを進めていくべきか、現在どのように活動しているのか。「コラボして起せよ、ムーブメント!」のテーマにふさわしい、素晴らしい熱量の論議が続きました。



連携を進めるための工夫も大切 大きなスケールの中で自己成長を

かつてないスケールといわれる7月例会。このような企画を実現できるのも青年会議所の醍醐味のひとつであり、組織の連携によるものです。多様なメンバーがつながるためのAIによる自動翻訳など、新たな試みも採用されました。その中には課題もありましたが、世界と日本と自身がつながるそのスケール感を実感しながら、運動を進める中で発見する課題や問題の本質を見極め、追及する。そうしてJC運動をさらに積極的に行っていく過程は自己成長を促すことにつながるでしょう。



Junior Chamber International Tokyo
公益社団法人 東京青年会議所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F

公益社団法人 東京青年会議所 事務局

TEL:03-5276-6161 FAX:03-5276-6160 <http://www.tokyo-jc.or.jp>